

チラシよりスマホ

投票率アップへ若者の知恵

東京都議選

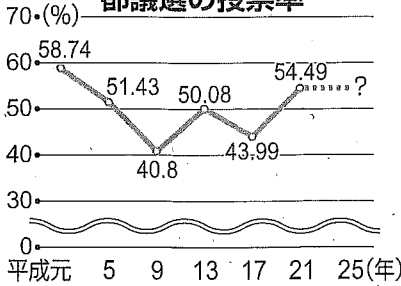
2013

都議選の投票率（23日）が迫り、低迷する若者の投票率を向上させようと、啓発活動も本格化している。若年層の関心が高いネット選挙が解禁される参院選前とあって、主戦場はネット上の仮想空間。「若者のことは若者に」。若者の知恵を生かした手法が目立つ。

《とある荒川区の公開討論》。フェイスブックに奇抜なデザイン文字が躍った。東京青年会議所（JCI）が16日に開く候補者公開討論会の告知だが、デザインは若者に人気のライトノベル「とある魔術の禁書目録（インデックス）」をもじったものだ。制作したJCIの鶴飼新介さん（33）は「よく分からないが行ってみようと思わせた。デザインひとつでそのきっかけにできるかも

「争点がない」ともいわれる都議選で、投票率の底上げは大きな課題。前回平

都議選の投票率



成21年の投票率は20歳が37・34%。21〜24歳では、30・12%とさらに下がる。都選挙管理委員会は、啓発CMに女優の剛力彩芽さん（20）を起用。ここまでは従来通りだが、今回は大手検索サイトへのバナー広告を3倍に増やし、スマートフォン（スマホ）向け広告も初めて導入する。担当者は「若者にはチラシよりもスマホが身近。まずは接触することが大事」と話す。各区の選挙も「空中戦」を展開する。港区選管は公募に応じた19〜22歳の男女7人の啓発チームを作り、フェイスブックやツイッターを活用した啓発活動を6月上旬から開始する。練馬区選管も、投票率を伸ばす案を地元の大学生に相談し、啓発動画を制作してネ

ット上で掲載するという。練馬区の試みに参加する武蔵大3年、岸孝明さん（20）は「20代の投票率が上

がれば、30代以上も投票に行くと思う。投票率アップの起爆剤になりたい」と話している。